

# 平成29年度全国学力・学習状況調査 (H29.4.18)

## 1 全国学力・学習状況調査の実施状況について

### (1) 調査の目的

ア 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

イ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

ウ そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### (2) 調査の対象

小学校第6学年、特別支援学校小学部第6学年

中学校第3学年、中等教育学校第3学年、特別支援学校中学部第3学年の全児童生徒

### (3) 調査内容

○ 教科に関する調査（国語、算数・数学）

※ 主として「知識」に関する問題（A）

※ 主として「活用」に関する問題（B）

○ 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

※ 児童生徒に対する調査

※ 学校に対する調査

## 2 伊方町における調査結果の公表について

### (1) 公表の趣旨

学力や学習状況の調査結果について、学校・家庭・地域のみんながその情報を共有し、学力向上のためにどうしていけばよいかを検討して指導改善等に取り組んでいく。

### (2) 留意事項

ア 「9年間の学びを見通した教育の創造」の町統一テーマの下、小学校・中学校の連携による取組を重視する。

各中学校区ごとの地域を一体的にとらえて取り組む。

イ 教科に関する調査や児童生徒質問紙調査は、レーダーチャート等で表示し、実態把握や分析、改善策を検討していく。

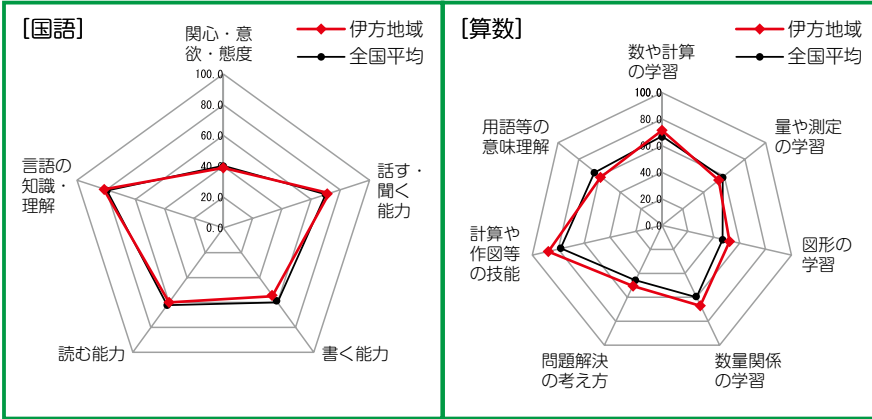
ウ 点数等の数値表示、一覧表の作成、順位づけはしない。

# 平成29年度全国学力・学習状況調査における調査結果 【伊方地域】

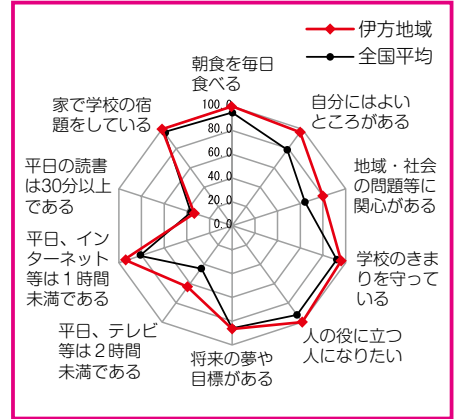
○教科に関する調査（全国の平均正答率との比較）

○児童生徒質問紙調査  
（全国の平均回答率との比較：肯定的な回答）

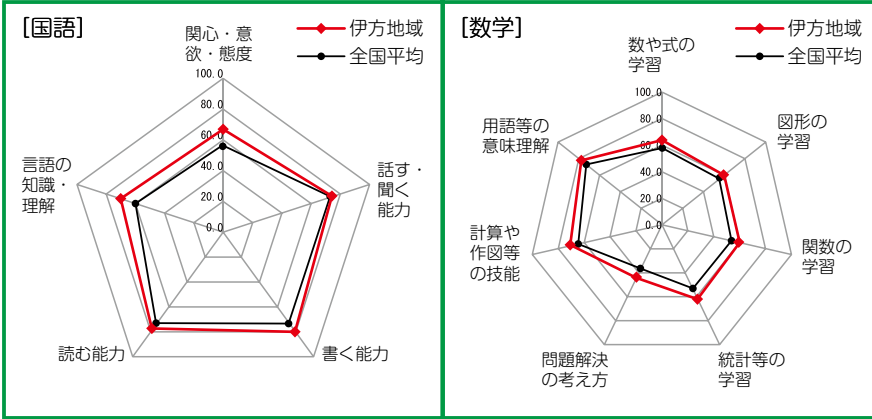
<小学校>



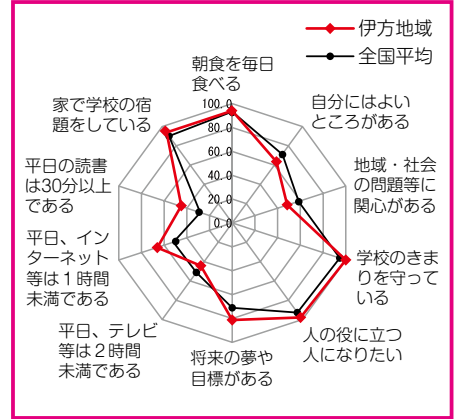
<小学校>



<中学校>



<中学校>



## 結果の分析

<小学校>

- 国語・算数ともに、基礎基本の問題は全国平均をやや上回っているが、活用問題はやや下回っている。国語の「読む力」「書く力」と算数の「用語等の意味理解」に課題がある。
- 児童生徒質問紙調査では、ほとんどの項目が全国平均を上回っている。特に「朝食を毎日食べる」「人の役に立ちたい」「宿題をする」の項目は、肯定的な回答が100%である。「平日の読書は30分以上」の項目がやや下回っている。

<中学校>

- 国語・数学ともに、どの項目も全国平均を上回っている。特に国語の「関心・意欲・態度」「言語の知識・理解」と数学の「統計等の学習」「問題解決の考え方」はよい傾向にある。
- 児童生徒質問紙調査では、ほとんどの項目で肯定的な回答が全国平均を上回っている。特に昨年度の課題であった「将来の夢」の項目に改善が見られた。「自己肯定感」「地域・社会の問題への関心」の項目では、やや下回っている。

## 改善方針

<小学校>

- 各教科等を通して、「読む力」や「書く力」を伸ばすための指導の工夫を図る。
- 算数では、「用語等の意味理解」の指導を工夫する。
- 授業改善や家庭学習の推進等、学力向上の取組の継続と充実を努める。

<中学校>

- 国語の基礎的・基本的な力をさらに

伸ばし、活用能力の向上に努める。

- 「自己肯定感」を高めるとともに、「地域・社会への関心」を持たせる指導等の工夫を行う。
- <小中共通>
- 学力差の解消に努め、個に応じたきめ細かな指導の充実を図る。
  - 学校や家庭での読書時間を確保するとともに読書意欲を高める。

## 具体的な取組

<小学校>

- 各教科の中で、問題の意図を正しく読み取り、条件に合わせて書く活動を積極的に取り入れる。
- ICT機器を積極的に用いることにより、学ぶ意欲をより高めるとともに、数量や図形の学習等に効果的に活用する。
- 自分の思いや考えを整理して、話し合ったり発表したりする機会の充実を図る。
- 繰り返し学習することで用語等の意味理解を深め、既習内容の定着を図る。

<中学校>

- 話し合い活動や自分の考えを発表する機会を充実させるとともに、視写学習、読書活動の推進を図る。
- 総合的な学習の時間等を利用し、体験的な活動の充実を図ることで、地域・社会への関心や自己肯定感を高める。

<小中共通>

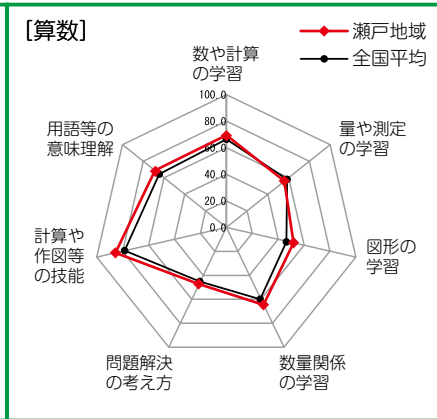
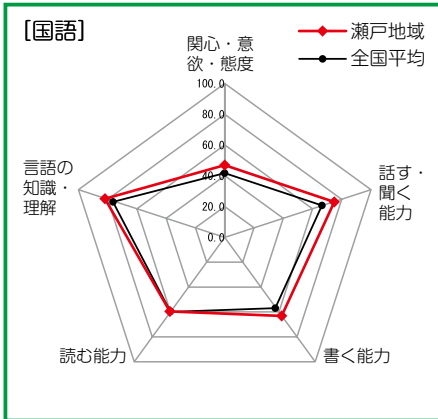
- 習熟度別学習やワークシート等の工夫をし、個に応じた手立てを講じる。
- 「家庭学習!学びのステップ」の活用により、家庭と連携し、家庭学習や読書の時間を確保する。(ノーゲームデーの継続)

# 平成29年度全国学力・学習状況調査における調査結果 【瀬戸地域】

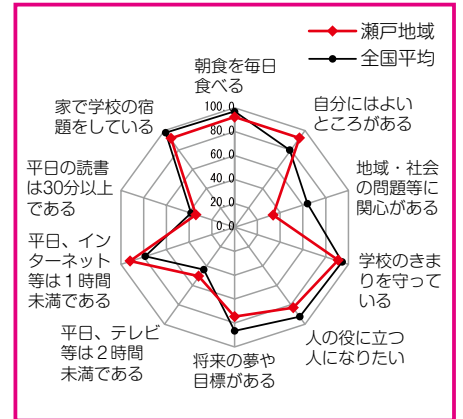
○教科に関する調査（全国の平均正答率との比較）

○児童生徒質問紙調査  
（全国の平均回答率との比較：肯定的な回答）

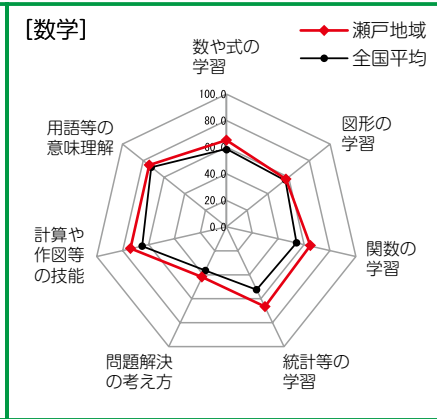
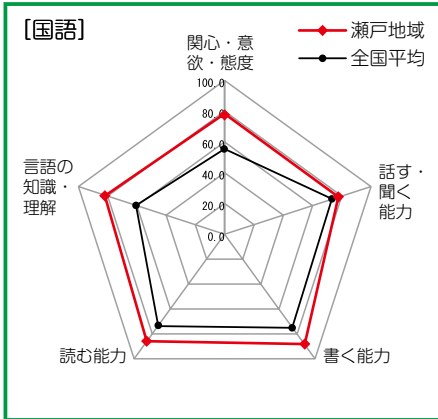
<小学校>



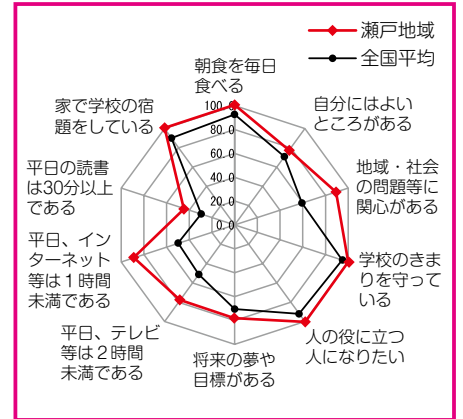
<小学校>



<中学校>



<中学校>



## 結果の分析

《小学校》

- 国語は、「関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「書く力」は昨年に引き続き全国平均を上回っている。また、昨年度課題であった「言語の知識・理解」も全国平均を上回っており、改善が見られる。しかし、「読む能力」は、基礎基本の問題では平均を上回ったが、記述式の問題の正答率が低い。
- 算数については、昨年度課題であった「図形の学習」「問題解決の考え方」に改善が見られ、すべての項目において全国平均とほぼ同じか、もしくは上回っており、良好な結果を得た。しかし、「量や測定」

- の問題に関する正答率が低い。
  - 児童生徒質問紙調査では、「地域・社会の問題等に関心がある」の項目が低い。
- 《中学校》
- 国語科は、全ての項目で全国平均を上回る結果を得た。
  - 数学科は、基礎・基本が定着してきており、ほぼ全ての項目で全国平均を上回る結果を得た。
  - 児童生徒質問紙調査では、全ての項目で全国平均を上回っている。しかし、「平日の読書は30分以上である」の項目が低い。

## 具体的な取組

《小学校》

- 授業や業間活動の中で、書く活動を多く取り入れ、文章表現力の向上に努める。また、ねらいを明確にし、振り返りを文章で書かせることで、「分かる」授業の実践に努め、表現力を養う。みきゃん通帳を活用し、読書活動の充実を図ることで「読む力」の育成に努める。
- 基礎的なドリル学習の時間で身につけた知識・技能を活用する問題を定期的に実施し、学力の向上を図る。
- 総合的な学習の時間を利用して、ふるさとのよさや課題について目を向け、関心を高める授業実践に努める。

《中学校》

- 各教科で小テストを定期的に行い、基礎・基本の定着を図る。
- 少人数のよさを生かし、小グループや集団での学習の充実を図る。
- 読書の時間を設定したり、呼びかけをしたりして、読書に親しませる。

《小中共通》

- 「家庭学習調べ」や「生活リズムチェック」などを定期的に行い、望ましい学習習慣や生活習慣の確立を図る。
- 学校行事や日々の活動、小中連携などにおいて、体験的な活動やつながりを大切にし、成就感や達成感を味わわせ、自己肯定感を高める。

## 改善方針

《小学校》

- 国語については、引き続き文章表現力の向上に力を入れ、自分の考えを文章で正しく豊かに表現できる作文指導等の充実を図る。
- 算数については、基礎的な問題（量や測定）の定着を図るためのドリル学習や個別指導の充実を図るとともに、操作活動を多く取り入れた授業の実践に努める。
- 地域・社会の問題に対する興味・関心を持たせるための授業の見直しや改善に努める。

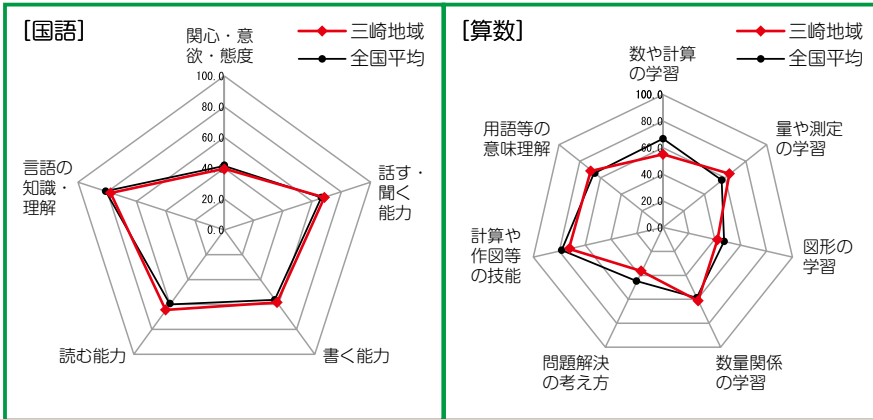
《中学校》

- 基礎・基本の定着を図るための取組を今まで以上に充実させる。
  - 個別指導やグループ学習を充実させる。
  - 平日における家庭生活を見直すとともに、読書に親しませる取組を行う。
- 《小中共通》
- 保護者との連携を密にし、望ましい学習習慣や生活習慣を身に付けさせる。
  - 体験活動を重視し、小中のつながりを密にしながら、児童生徒の自己肯定感を高める。

# 平成29年度全国学力・学習状況調査における調査結果 【三崎地域】

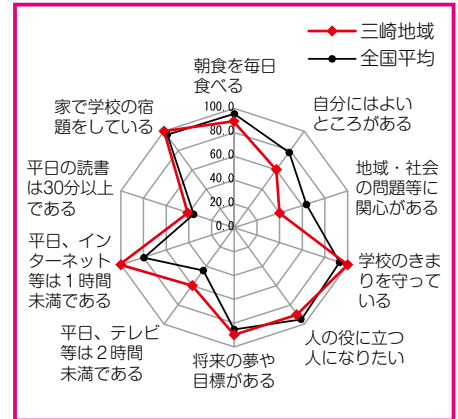
## ○教科に関する調査（全国の平均正答率との比較）

### <小学校>

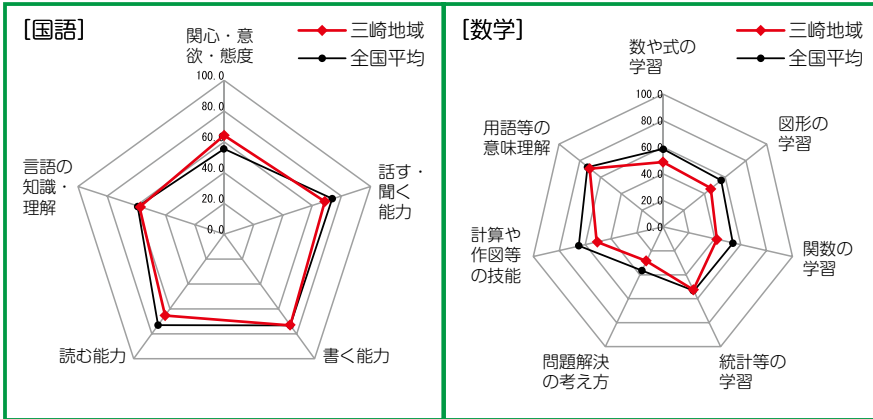


## ○児童生徒質問紙調査（全国の平均回答率との比較：肯定的な回答）

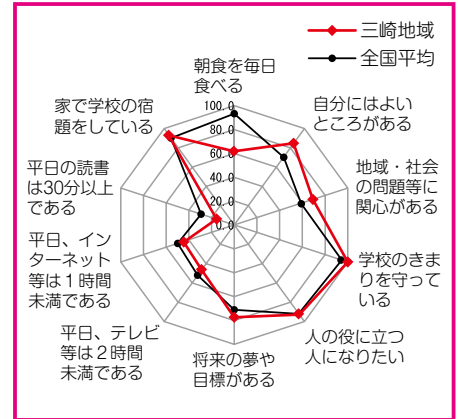
### <小学校>



### <中学校>



### <中学校>



## 結果の分析

### <小学校>

- 国語は、どの領域も全国平均と同程度か上回っているが、自分の考えをまとめて記述する問題の正答率が低かった。
- 算数は、大体の項目において、全国平均を下回っている。特に知識に関する問題に比べ、技能や問題解決の考え方に関する問題が下回っている。
- 児童生徒質問紙調査では、学習習慣の項目は、全国平均と同程度であったが、自己肯定感の項目が下回っている。また、

地域・社会の問題等への関心も低い。

### <中学校>

- 国語は、「関心・意欲・態度」で全国平均を上回っているが、「話す・聞く能力」「読む能力」が全国平均を下回っている。
- 数学は「統計等の学習」以外は全体的に全国平均を下回っている。
- 児童生徒質問紙調査では、全国平均を上回っている項目も多くあるが、「朝食を毎日食べる」と「平日の読書は30分以上」の項目が全国平均を下回っている。

## 改善方針

### <小学校>

- 各教科において、根拠を明らかにして、自分の考えを書く活動を多く取り入れるようにする。
- 算数では、個別指導により、「数量や計算の学習」「図形の学習」の基礎的・基本的技能の定着を図る。

### <中学校>

- 個別指導や補充学習を行い、基礎・基本の定着を図る。
- 読書指導や考えをまとめる授業を充実

させ、「読解力」と「話す・聞く力」の向上に努める。

- 保護者との連携を図り、「早寝・早起き・朝ごはん」といった生活習慣や家庭での学習習慣を確立させる。

### <小中共通>

- 個別指導を充実させ、基礎・基本の定着に努める。
- 生活リズムを整え、生活習慣、学習習慣を定着させる。
- 自己肯定感を高める活動を取り入れる。

## 具体的な取組

### <小学校>

- 補充学習の時間を活用して、個別指導を充実させる。
- ICTを効果的に活用したり、学習形態を活用したりして、自分の考えを伝える場を増やす。

### <中学校>

- 基礎定着テスト（小テスト等）を継続的に行い、理解が不十分な生徒には補充学習を行うことで、基礎的・基本的な内容を定着させる。
- 各教科で、自分の考えを文章にまとめ発表する場面を設定し、自分の考えを表現する力、人の意見を聞く力を身に付けさせる。
- 朝学習における読書の時間を増やしたり、呼びかけや集会を行ったりすることで読書に対する意識を高めさせる。

### <小中共通>

- 個別指導の時間を確保し、個の定着の度合いに応じて教材を工夫する。
- 生活リズムチェック表を活用し、家庭との連携を図ることで、生活習慣を整える。
- 道徳や学校行事、小中連携の行事を通して、自己肯定感を高める。